

1. 神様の前で静まりましょう

詩編 46:10 「**やめよ。わたしこそ神であることを知れ。** わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。」【新改訳】

「**静まってわたしこそ神であることを知れ**」【口語訳】

「**汝ら静まりて私の神たるを知れ**」【文語訳、】

11 万軍の主はわれらとともにおられる。ヤコブの神はわれらのとりでである。セラ

【詩編 46 編の時代背景】【イザヤ 36～37 章、II 列王記 18～19 章】

- 1) ヒゼキヤ王の6年にアッシリヤがイスラエルを滅ぼした
- 2) ヒゼキヤ王の14年にエルサレムは、18万5千の兵隊で包囲された
- 3) アッシリヤの王様はイスラエルの神様を侮り、人々にヒゼキヤに聞き従わないように命じた

➤ 絶体絶命の状態でのヒゼキヤ王様は、主の宮で静まり祈りました。

II 列王記 19:15 ヒゼキヤは主の前で祈って言った。「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、主よ。**ただ、あなただけが、地のすべての王国の神です。**あなたが天と地を造られました。16 主よ。御耳を傾けて聞いてください。主よ。御目を開いてご覧ください。生ける神をそしるために言ってよこしたセナケリブのことばを聞いてください。17 主よ。アッシリヤの王たちが、国々と、その国土とを廃墟としたのは事実です。18 彼らはその神々を火に投げ込みました。それらは神ではなく、人の手の細工、木や石にすぎなかったのです。滅ぼすことができたのです。19 私たちの神、主よ。どうか今、私たちを彼の手から救ってください。そうすれば、**地のすべての王国は、主よ、あなただけが神であることを知りましょう。**」

- a) ヒゼキヤは全てを「やめて」主の前にやってきました。
 - ① 敵と話をすることをやめて、神の預言者に、祈りを要請しました。
 - ② 心配してうろたえることをやめました。
 - ③ 全てをやめて、断食して、主の宮に行った。
- b) 神様は、ヒゼキヤの祈りを聞かれました。

II 列王記 19:20 アモツの子イザヤはヒゼキヤのところに人をやって言わせた。「イスラエルの神、主は、こう仰せられます。『**あなたがアッシリヤの王セナケリブについて、わたしに祈ったことを、わたしは聞いた。**』」

II 列王記 19:34 わたしはこの町を守って、これを救おう。わたしのために、わたしのしもべダビデのために。」:35 **その夜、主の使いが出て行って、アッシリヤの陣営で、十八万五千人を打ち殺した。**人々が翌朝早く起きて見ると、なんと、彼らはみな、死体となっていた。

- 4) 神様は、断食して主の前で祈りをささげたヒゼキヤの祈りを聞かれました。
- 5) ヒゼキヤの祈りの通りに、イスラエルを包囲していた18万5千の兵士を一夜にして滅ぼされたアッシリヤの王は引き返して行き、殺されました。

➔ どのような王がこのようなことをすることができるでしょうか。神様だけです。

2. 神様を神と知る

- 主の前に静まり、主に祈るときに、主を体験することができます。
- 主の癒し、主の語り掛け、主の奇跡を見ることができるのです。
- 主だけが、神様であることを知ることができるのです。
- 主を第一として、歩み、勝利の人生へとみちびかれます。

3. 神様を知るために、主の前に静まりましょう。

1. 多くのやらなければならないことや、心配や不安や仕事が目前にあります。
2. 自分の心を満たすために、神様以外の多くのものを求めています
SNS, TV, ラジオ、趣味、食事、買い物、娯楽、仕事、
3. 不満や要求を人に求めています。人々のおしゃべりによって。
4. 神様を礼拝することよりも、他のことが優先されています。



➔ イザヤ 58 章から

1. 食べ物を断食しても、主の前に静まり、主の御心を求めないなら、自分勝手な断食となり神様には届きません。
2. 神様が求める断食は
 - a) 悪をやめること。【イザヤ 58:6】
 - b) 自分中心をやめること。隣人に愛を示すこと。【イザヤ 58:7, 10】
 - c) 後ろ指や、つまらないおしゃべりをやめること【イザヤ 58:9】
 - d) 主の聖日に自分の好むことをやめる。礼拝を喜びとして第一とすること。【イザヤ 58:13】
3. 「やめよ、静まれ」と言われている神様の御言葉に応答しましょう。
4. 主は必ず貴方の祈りに答えて下さいます。
霊的な目が開かれ、心の傷が癒され、主を神様と知ることができます。

応用 「何を、やめて、主の前に静まりますか？」